

## シンポジウムII

5. 海上自衛隊潜水医学実験隊における  
減圧症治療の現況と問題点

池田知純

(海上自衛隊潜水医学実験隊)

【現況】海上自衛隊潜水医学実験隊は飽和潜水をはじめとする各種の潜水医学に関する研究を主任務とする部隊である。減圧症の治療は、要請があった場合は民間人に対しても行っているが、第一義的には潜水業務に携わる海上自衛官を対象としている。以下に海上自衛隊潜水医学実験隊における過去10年間の治療実績を示す。

年	治療数	分類			職種		
		I	II	AGE	自衛官	職業	スポーツ
78	9	7	2	0	4	5	0
79	6	2	4	0	1	5	0
80	4	2	2	0	3	1	0
81	4	2	1	1	2	2	0
82	5	3	2	0	2	2	1
83	8	4	4	0	3	1	4
84	11	3	8	0	1	6	4
85	9	2	7	0	0	4	5
86	5	2	3	0	0	2	3
87	9	4	5	0	3	5	1

(但し、I：I型減圧症、II：II型減圧症、AGE：空気塞栓症、職業：潜水漁師ないし高気圧作業者等、スポーツ：スポーツダイバー等を表す)

【特徴及び問題点】海上自衛官の場合、減圧表を遵守しているため重症の減圧症に罹患することは少なく、かつ罹患しても現場の艦艇の再圧チェンバーを用いて速やかに治療することが多いので問題は少ない。但し飽和潜水中に発生した減圧症は症状に比し再圧治療に時間がかかる。民間人の場合、不十分な治療を受けた後に当隊を受診することが多く、民間において減圧症の治療体制が必ずしも充分でないことを窺わせる。なお、入院治療に当たっていた隣接の海上自衛隊横須賀地区病院が移転したので、現在入院治療等は困難である。

(本旨は海上自衛隊潜水医学実験隊の公的見解ではなく、発表者の個人的意見である)